

オンライン研究プラットフォーム BOLD

— 発達科学における研究協力者と研究者の新たな連携モデル —

加藤 正晴¹, 土居 裕和², 孟 憲巍³, 村上 太郎⁴, 梶川 祥世⁵, 大谷 多加志⁶, 上原 泉⁷, 箕浦 有希久⁸

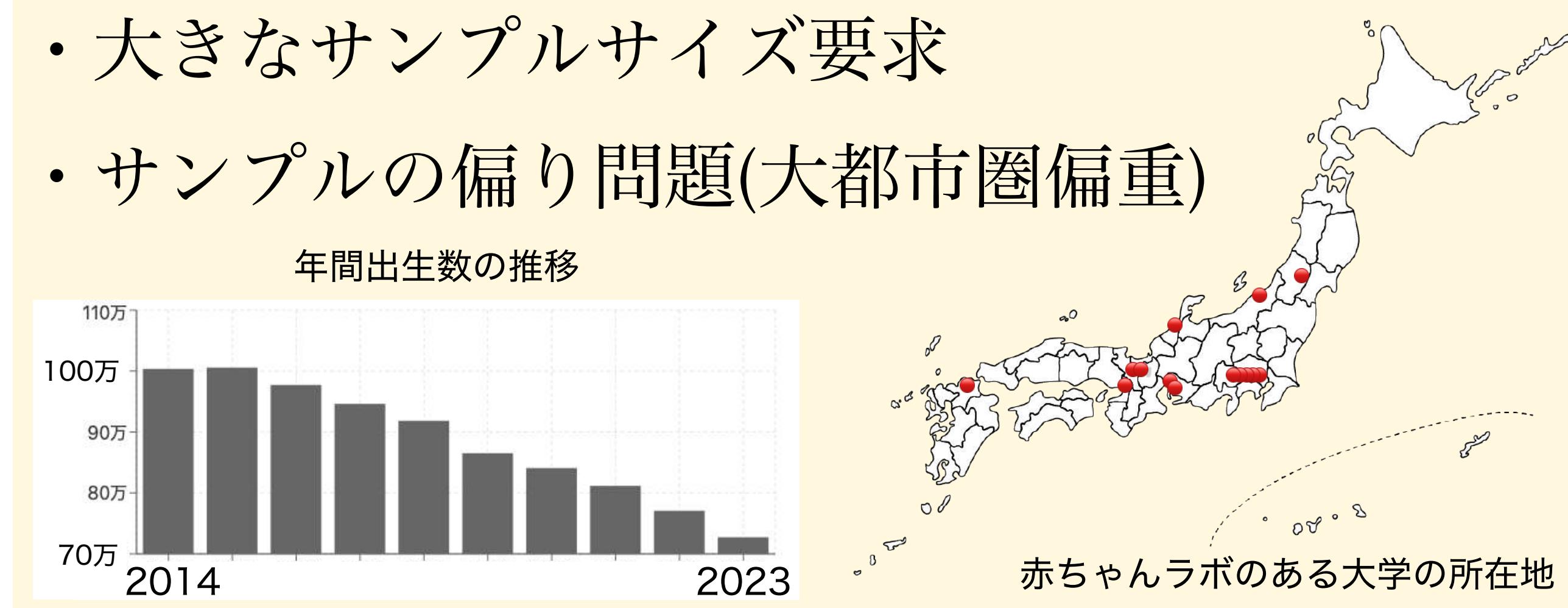
(1) 同志社大学 (2) 長岡技術科学大学 (3) 名古屋大学 (4) 常葉大学 (5) 玉川大学 (6) 京都光華女子大学 (7) お茶の水女子大学 (8) 佛教大学

はじめに

コロナ禍以降、オンラインによる調査は一般的な研究手法となった。しかし対面調査と比べても実施に負担を感じることも多い。こうした負担を取り除き、研究者および研究協力者が共に満足のいく研究環境を実現することが必要ではないか

現在の発達研究の課題

- ・人口減少(2023年の出生数は72.3万人)
- ・赤ちゃん研究員リクルート・維持の困難さ
- ・大きなサンプルサイズ要求
- ・サンプルの偏り問題(大都市圏偏重)



BOLDとは

ねらい

- ・発達研究者のリクルートコストの低減
- ・乳幼児発達研究の普及
- ・新たな形の縦断研究の創出

特徴

- ・参加者の募集、調査補助を実施
- ・既存のパネル会社と異なり、乳児の登録が多い
- ・オンラインアンケート、オンライン実験環境を整備

BOLDが提案する解決策

全国規模の研究協力者プールの共有：

2025年2月現在で約1000名、34都道府県

リクルートシステムの共有：

研究者は参加者リクルートをしなくて良い

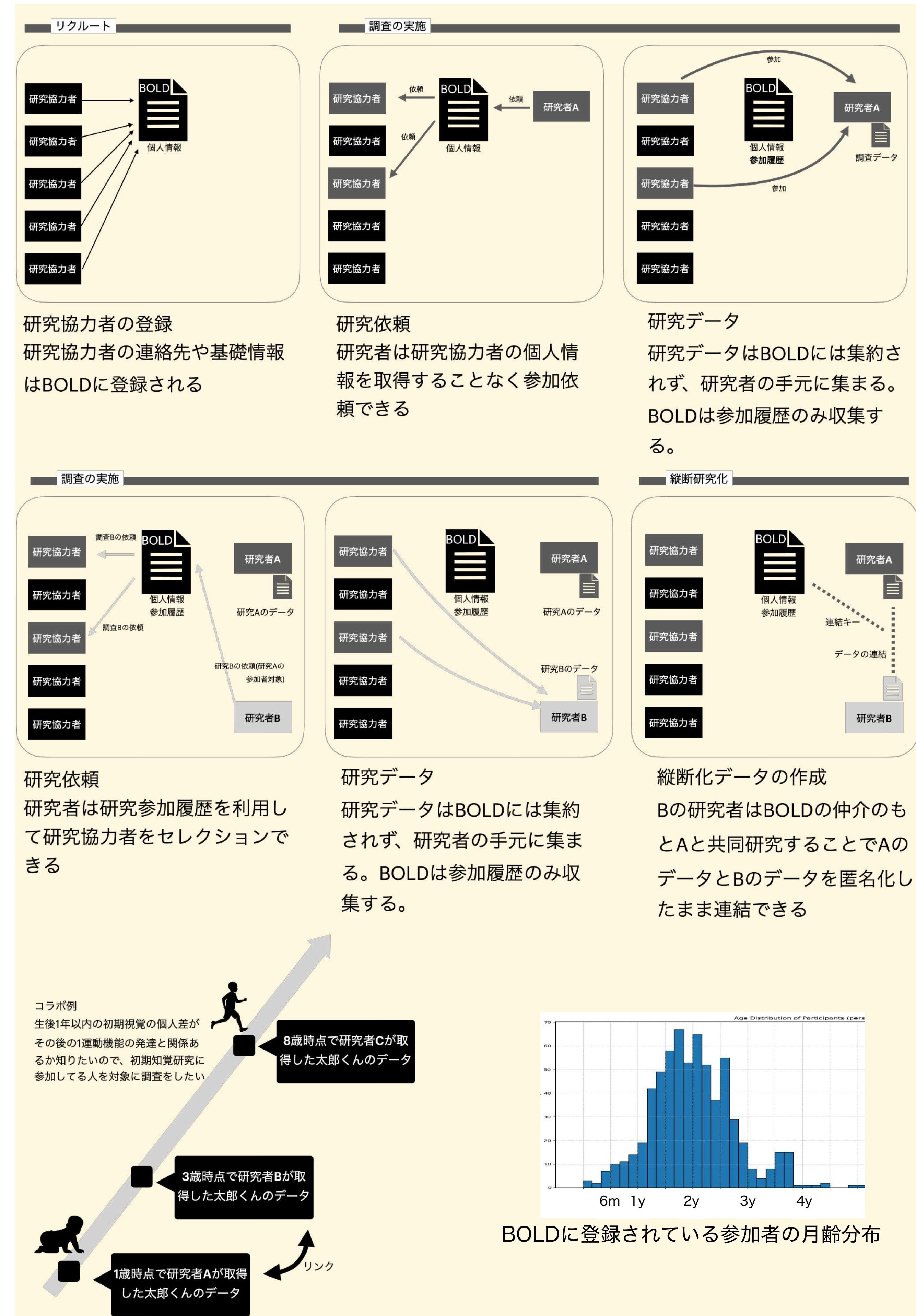
個人情報のBOLDへの一元化：

研究者は個人情報の管理から解放される

新しい形の縦断研究：

研究者間の連携による効率的な縦断研究の実現

BOLDの仕組み



実施研究例

コア研究

- ・気質と乳幼児発達スケールの相互作用研究

個別研究

- ・乳児の色選好の性差研究(zoomを用いた選好注視法)
 - ・Mooney faceを用いた乳児の顔知覚の発達(タブレット送付法)
 - ・イヤイヤ期の子どもへの対処法(オンラインアンケート法)
- など...

今後の展望

研究協力者と研究者の段階的な拡大

共同研究の実施

保護者視点から始まる調査の企画と実施

海外研究者の受け入れ



BOLD紹介サイト

References

- Kato, M., Doi, H., Meng, X., Murakami, T., Kajikawa, S., Otani, T., & Itakura, S. (2021). Baby's Online Live Database: An Open Platform for Developmental Science. *Frontiers in Psychology*, 12. doi:10.3389/fpsyg.2021.729302
- 加藤正晴, 土居裕和, 孟憲巍, 村上太郎, 梶川祥世, 大谷多加志, 上原泉, 箕浦有希久. (2024). Baby's Online Live Database によるオンライン縦断研究. 心理学評論, 67(1), 95-108.

